

# 医薬品情報

2015. 4. 16 415

独立行政法人国立病院機構  
盛岡病院  
薬剤科

医薬品名	アジルバ錠20mg アジルバ錠40mg
一般名	アジルサルタン
会社名	武田
掲載分類名	持続性AT1レセプターブロッカー
掲載区分	添付文書改訂
改訂理由	薬食安

2015.4.23付薬食安0423第1号

## 【使用上の注意】

### 4.副作用

#### (1)重大な副作用(いずれも頻度不明)

以下の副作用があらわれることがあるので注意すること。

5)肝機能障害:AST(GOT)、ALT(GPT)、 $\gamma$ -GTPの上昇等を伴う肝機能障害があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

—2015年04月 改訂—

医薬品名	サインバルタカプセル20mg
一般名	デュロキセチン塩酸塩
会社名	リリー(塩野義)
掲載分類名	セロトニン・ノルアドレナリン再取り込み阻害剤
掲載区分	添付文書改訂
改訂理由	薬食安・自主改訂

2015.4.23付薬食安0423第1号、自主改訂

## 【使用上の注意】

### 4.副作用

#### (1)重大な副作用

2)悪性症候群(頻度不明<sup>※1</sup>):悪性症候群があらわれることがあるので、発熱、無動緘黙、強度の筋強剛、嚥下困難、頻脈、血圧の変動、発汗、白血球数増加、血清CK(CPK)上昇等の異常が認められた場合には、投与を中止し、体冷却、水分補給等の全身管理と共に適切な処置を行うこと。また、ミオグロビン尿を伴う腎機能の低下がみられ、急性腎不全に至ることがあるので注意すること。

※1:自発報告又は海外において報告されている副作用のため頻度不明

#### (2)重大な副作用(類薬)

<項目削除>

—2015年04月 改訂—

医薬品名	ピペラシリンNa注射用1g「サワイ」
一般名	ピペラシリンナトリウム
会社名	沢井
掲載分類名	合成ペニシリン製剤
掲載区分	添付文書改訂
改訂理由	自主改訂

自主改訂

## 【使用上の注意】

### 2.重要な基本的注意

本剤によるショック、アナフィラキシー<削除:様症状>の発生を確実に予知できる方法がないので、次の措置をとること。  
(記載省略)

### 3.相互作用

#### 併用注意(併用に注意すること)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
抗凝血薬 ワルファリン等	血液凝固抑制作用を増強するおそれがあるので、出血傾向等に注意すること。	本剤の出血傾向や腸内細菌によるビタミンK産生抑制等により相加的に血液凝固抑制作用を増強させると考えられる。

### 4.副作用

#### 1)重大な副作用(頻度不明)

- (1)ショック、アナフィラキシー<削除:様症状>(呼吸困難、そう痒等)を起こすことがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。
- (2)中毒性表皮壊死融解症(*Toxic Epidermal Necrolysis: TEN*)、皮膚粘膜眼症候群(*Stevens-Johnson症候群*)があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

### 6.妊婦、産婦、授乳婦等への投与

2)母乳中への移行が報告されているので、授乳中の婦人に投与する場合には授乳を中止させること。

### 8.臨床検査結果に及ぼす影響

1)本剤の投与により<削除:、クリニテスト>、ベネディクト試薬等の還元法による尿糖検査では、偽陽性を呈することがあるので注意すること。

—2015年04月 改訂—

医薬品名	プラビックス錠25mg プラビックス錠75mg
一般名	クロピドグレル硫酸塩
会社名	サノフィ
掲載分類名	抗血小板剤
掲載区分	添付文書改訂
改訂理由	薬食安

2015.4.23付薬食安0423第1号

## 【使用上の注意】

### 4.副作用

#### (1)重大な副作用

7)中毒性表皮壊死融解症(Toxic Epidermal Necrolysis: TEN)、皮膚粘膜眼症候群(Stevens-Johnson症候群)、多形滲出性紅斑、急性汎発性発疹性膿疱症(頻度不明<sup>(注1)</sup>):中毒性表皮壊死融解症、皮膚粘膜眼症候群、多形滲出性紅斑、急性汎発性発疹性膿疱症があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

注1)海外あるいは国内市販後において認められた副作用のため頻度不明。

－2015年04月 改訂－

医薬品名	リファンピシンカプセル150mg「サンド」
一般名	リファンピシン
会社名	サンド, 日本ジェネリック(サンド), ニプロ(サンド)
掲載分類名	リファンピシン製剤
掲載区分	添付文書改訂
改訂理由	自主改訂

自主改訂

### 【禁忌】(次の患者には投与しないこと)

2.HIV感染症治療薬(インジナビル硫酸塩エタノール付加物、サキナビルメシル酸塩、ネルフィナビルメシル酸塩、ホスアンプレナビルカルシウム水和物、アタザナビル硫酸塩、リルピビルン塩酸塩、エルビテグラビル又はコビススタットを含有する製剤)、ボリコナゾール、プラジカンテル、タダラフィル(アドシルカ)、テラプレビル、シメプレビルナトリウム、ダクラタスビル塩酸塩、アスナプレビル又はバニプレビルを投与中の患者(「3.相互作用」の項参照)

### 【使用上の注意】

#### 3.相互作用

##### (1)併用禁忌(併用しないこと)

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
ダクラタスビル塩酸塩 ダクルインザ	ダクラタスビル塩酸塩の作用が減弱するおそれがある。	本剤の肝薬物代謝酵素(CYP3A4)誘導作用により、ダクラタスビル塩酸塩の代謝を促進し、血中濃度を低下させると考えられている。
アスナプレビル スンベプラ	アスナプレビルの作用が減弱するおそれがある。	本剤の肝薬物代謝酵素(CYP3A4)誘導作用により、アスナプレビルの代謝を促進し、血中濃度を低下させると考えられている。
バニプレビル バニヘップ	バニプレビルとの併用初期に、バニプレビルの血中濃度が上昇するおそれがある。また、併用継続により、併用初期よりもバニプレビルの血中濃度が低下するおそれがある。	有機アニオントランスポーター(OATP1B1及びOATP1B3)を介したバニプレビルの肝臓への取り込みを阻害すると考えられている。また、本剤の肝薬物代謝酵素(CYP3A4)誘導作用により、バニプレビルの代謝が促進されると考えられている。

##### (2)併用注意(併用に注意すること)